

## 1. 普通鋼鋼材の在庫状況見通し（全国市中数量調査の自社所有分による）

\*上段は前期比在庫増減、中段〔 〕は在庫水準、下段（ ）は在庫水準前期比（%）（自社所有分に限る）  
点線内は全鉄連による予想数字（ ）内は誤差率=予想値÷実績

令和6年8月末	令和6年11月末	令和7年2月見通し	令和7年5月見通し
—42千トン 〔2072千トン〕 (98.0)	—94千トン 〔1978千トン〕 (95.5%)	+12千トン 〔1990千トン〕 (100.6%)	+22千トン 〔2012千トン〕 (101.1%)
2084千トン (100.6)	2050千トン (103.6)	*	*

## 2. 前述の在庫増減がそれぞれ市況に及ぼした影響

令和6年9月末	令和6年12月末	令和7年3月見通し	令和7年6月見通し
鉄筋、H形鋼、C形鋼の平均市況は139,700円。前期比+1,000円。仕入を抑えているため在庫は減少傾向だが、夏場の猛暑や夏季休暇により需要環境は極めて低調、秋口も改善の兆しはほとんどなかった。某電炉メーカーの値下げ発表により市況は弱含みだ。	鉄筋、H形鋼、C形鋼の平均市況は138,000円。前期比-1,700円。建築需要は実需不振が継続。年末に向けての商いも低調、特に店売り販売においては落ち着きをみせ、荷動き、引合いが更に低調だった。在庫は例年より低位で推移しており、市況はジリ安傾向。	年明けも年末と変わらず商いは低調に推移。年々、鉄鋼二次流通業者の取扱量が少しずつ減少傾向。各社、発注を抑えて在庫調整していることから市中在庫は適正と思われる。但し需要低迷が続くと予想されることから、在庫の過剰感は続くだろう。量を追わずに収益重視の販売姿勢に徹していくと思われる。	人手不足や残業規制などの影響で工期が伸び、製造業においてはフル生産できないため、荷動きも低調が続くだろう。特に建築需要の乏しさから流通間の受注競争に伴う安値や安価な輸入材の影響で市況は弱含み採算悪化が懸念される。仕入抑制で在庫量は横ばいだが、実需に比べ感覚的には過剰感で推移するだろう。

## 3. 在庫積み増し、あるいは削減の意欲または方針

2月仕入量は141,407トン前月比+6.5%、前年同月比-10.8%、販売量は139,232トン前月比+4.9%、前年同月比-9.7%。前月比において仕入量、販売量ともに増加。前年同月比において仕入れ量は著減、販売量は減少しました。在庫量は201,545トン前月比+1.1%、前年同月比-11.2%、在庫量は前月比増加、前年同月比は著減しました。在庫率は144.8ポイントと下降しました。低調な荷動きが続き、販売量も前年同月比で約1割減少しています。市況はジリ安傾向となっています。

## 4. 大阪

H形鋼・一般形鋼は、1月が悪すぎた影響もあり、反動で2月、3月とも若干回復傾向だが、稼働日数が多くなる3月は荷動き増加予想も、物足りない状況が続く。新車販売台数では、認証不正問題による減産から回復しているが、人手不足等の問題もあり生産ペースを上げることができず、コロナ前の水準と同レベルに戻るまでには至っていない。白物家電は、寒冷地でのエアコンの販売が伸びている事もあり、前年プラスと堅調だが、冷蔵庫・洗濯機は前年割れと低調。4～6月の需要見通しは、1～3月と大きく変わらず秋口まで需要の端境期になりそう。建築・土木関係ともに物件がみえておらず当面我慢。新車販売もおおむね回復してきているが、サプライチェーンを含めた製造業現場では人手不足が深刻化しており今以上に生産ペースを上げる事が難しくなっている。ペースを上げる事は難しくなっている事が懸念される。